まき

発行所
西蒲原郡
巻町公央中公民館
編集人　北川郡司
印刷所　北洋印刷株式会社

希望に満ちた新生巻町の開町式

開町式式辞

町長職務執行者
山添清一郎

一昨年十月町村合併促進法が制定されるや、日常経済、民情慣行、縁故関係等の結びも深い隣接巻町、峰岡村、浦浜村、松野尾村、角田村、漆山村の六ヶ町村相寄り住民の関心と注目の中に、新しい郷土の建設と取り組み連日集会が開かれていたが、去る十二月七日関係町村の話合いがなり各町村の議会に於て一斉にこれを議決し一月一日ここに巻町二八、〇〇〇人のよろこびと拍手の中に歴史的なる開町式が盛大に挙行された。（北川）

本日こゝに新生巻町の誕生に伴う開町式を挙行するに当り多数来賓の御臨席をいたゞき一言式辞を述べる機会を得ましたことは私のもつとも欣快とする処であります。

町村行政が時代の流れと共に複雑化し、殊に戦後の改革で急激に自治事務が増加し、今までの町村規模や行財政能力ではまかない切れず加うるに社会、経済、文化の進展に伴い住民の生活圏が拡大し、こゝに社会構造の改革、生活様式の即応を余儀なくされ一昨年十月町村合併促進法が制定されるや、日常経済、民情慣行、縁故関係等の結びも深い隣接六ヶ町村相寄り、連日慎重協議の結果、去る十二月七日各町村議会に於て一斉議決をみ国及び県の許可を得てめでたく合併を締結し、こゝに堅実にして平和の新生巻町が誕生致しましたことは町民の福利増進は勿論のこと、町発展は疑う余地もないと確信いたすものでございます。

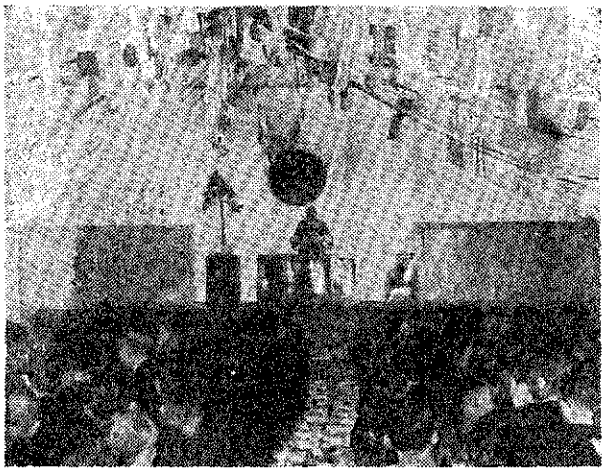
合併の巻町は総人口二八、六六〇人、総面積七一、七一平方粁にして、人口、面積共に本郡第一であり県下でも有数の大きな町となつたのであります。

又農産物としても米の生産高はこれ又郡生産の大半を収穫し全国一の米産町となるのであります。山間砂丘地帯の畑作は実に他に例なく遠く県外迄も搬出されており、山林その他天然資源及び天然瓦斯等、実に巻町の前途は洋々たるものがあります。

地方行政の中軸をなす地方事務所、税務署町の治安にあたる警察署、裁判所、検察庁等々又教育面に於いても高等学校、農業高等学校を有し中学校の施設も充実し、商工業又実にすばらしい発展振り精神である住民の幸福が一日も早からんことを念願いたします。

意義ある開町式を永久に記念し一言以て式辞といたします。

昭和三十年一月一日



新生巻町の開町式
式場
（於て巻中学校）

巻町建設基本方針

位置　角田山麓西蒲原の中央に位し東西二八、七三粁、南北三一、八一粁
面積　七一、七一平方粁
人口　二八、六六〇人

経済、文化、交通の要衝と各種行政機関の所在する巻町と日常経済は勿論民情慣行、縁故関係等の結びも深い隣接五ヶ村が合併し相携えてその財政力を強化し、豊富に包蔵される各種資源の開発と土地改良等の事業を整備し農林水産物資の増産と相俟つて之に伴う消費物資補給を目途とする商工業の振興、併せて地域社会に相応しい文化厚生等の施設の充実を図り、環境と均衡する理想都市を建設し、以て住民の福利を増進し健全な自治体を確立せんとするものである

町議会だより

新生巻町第一回町議会は十二日午前十一時より巻小学校図書館に於て仮議長五伝木仲蔵議員（松野尾）によつて開会された。提出議案中、正副議長、各常任委員長外関係委員の選任をみたものは次の通りである。

議長　八木沢菊蔵（巻）
副議長　山賀辰二（松）
総務委員長　松田　七郎（峰）
財務委員長　山川　清臣（角）
農林水産委員長　佐々木義衛（漆）
厚生衛生委員長　大沢福一郎（峰）
商工観光委員長　滝深　周元（浦）
消防委員長　岩崎　清一（松）
文教委員長　金子多計雄（角）
土木委員長　小林　誠司（漆）
水道委員長　吉田　和吉（巻）

臨時出納監査立会議員
笹口　六郎（松）
斎藤　博（峰）

議会選出教育委員
幸田　久作（巻）

巻町選挙管理委員会委員
久保田平三郎（巻）
井田　東一（峰）
河村　又之介（松）

補充委員
乙川清一郎（角）
阿部　績（浦）
細山　道闘（漆）

巻町成人式

本年の成人式は十五日午前十一時より巻小学校に於て開催する。

式次第
一、開式のことば
一、式辞
教育長代理笠原俊式
一、宣誓　富山靖之
一、祝辞　町長職務執行者　山添清一郎
町議会議長八木沢菊蔵
教育委員　長谷川義雄
一、答辞　大沢ヨシイ
一、閉式のことば

▼謹んで新年の御祝詞を申上げます新らしい新らしいということは改まつた感じがするもので吾々が新鮮感によせる心の生気感は期待に満ちていることが多い▼めでたい元旦を期して旧巻町外五ヶ村が合併して新生巻町がここに生まれた事は我々町民は二重の新鮮と新らしい輝しい前途をもち、希望の歴史の一頁をひらいたわけで誠に意義深い年である▼我々二万八千余の町民が一人一人力を結集して名実共に大巻町を築くべく相携えて進み、光彩映発する理想郷をうちたてることができるのもこれからの我々の努力いかんによるのである▼我々は単に合併をよろこぶだけでなく、合併した究極の目的をつねに忘れず、又困難なことに幾度か遭遇することもあろう時でも前途の光明を目指して住みよい町造りの大きな理想に協力を積み重ねてゆきたい▼過去の人々の限りない郷土愛と不撓の建設精神を偲び、新生巻町の多幸を心から祈るものである。（竹）

人口二万八千「新生」巻町の沿革

河井（漆山）より新生巻町を望む

荒漠たる原野に鍬を下して約六〇〇年、この間私共の郷土は源平時代を経て上杉景勝、堀左衛門尉秀治、徳川忠輝、堀丹後守等の治める処となり、爾来出入頻繁、常に諸侯に分領されつつ明治維新を迎う。徳川幕府が政権を返上してから、指折り数え早くも一世紀に垂んとしている。この間時代は明治、大正、昭和と三代に亘り、興亡のあわただしさの中にも社会は逞しい前進を続けてゆく、時代の流れは社会構造の改革を余儀なくし一昨年町村合併促進法が制定された。生れ変るこの社会と共に自から新しい息吹に生きんとする巻町外五ケ村の合併がなり一月一日新生巻町が力強く誕生した。新生巻町の発足に際し各字の歴史を探つてみた

巻町

大字　巻、堀山新田、鎧潟、赤さび
人口　一一、三四九人
面積　一二、四平方粁

巻　本町は中世以降蒲原郡弥彦の荘康応の頃（約五六六年前）西山庄左ェ門この地を開発せるという。慶長六年（三五三年前）上杉氏検地、後堀氏の治下に入る。慶安二年（三〇六年前）牧野駿河守忠成（長岡藩）の所領、元禄村という、元和の頃眞木村に改む更に巻村となる（年代不詳）年代不明なるが本村に衛署を設け代官が置れた。明治元年新潟民政局、同十二月水原府出雲崎民政局、同二年同府曾根局の支配に転じ同三年十一月新潟県の管轄郡区改正に際し西蒲に属し明治二十二年町村制施行の際堀山新田、鎧潟と合併、同二十四年村を改め町となる。昭和二十四年四月赤さびと合併し現在にいたる。

堀山新田　開発の年紀不明、寛政五年（一六二年前）幕府直領、出雲崎代官の支配を受く。慶応元年（九六年前）若松藩主松平氏の所領明治三年新潟県に所轄す。以降巻町と同じである。

鎧潟　享保二年（二三八年前）間部越前守の所領であつたが享和年間に村上藩主内藤紀伊守の手に移る、明治四年新潟県庁の所轄爾来巻と同じ。

赤さび　開発不明　慶安二年（三〇六年前）長岡藩検地す別に赤さび新田の名称あるも区域不明管轄は慶長年間（約三五〇年前）上杉氏同七年堀氏正保四年（三〇八年前）長岡藩、その後巻村代官所の預り所となる。明治三年十一月新潟県の所轄、二十二年町村制施行の際潟頭村等と合し潟南村と称す。同三十四年漆山村に合し漆山村となる。昭和二十四年四月漆山村より分村し巻町に合併し現在にいたる。

峰岡村

大字　峰岡、竹野町、前田、仁箇、布目、稲島、伏部、福井、舟戸、平澤、上木島、下木島、松郷屋、鷺ノ木
人口　四、七八四人
面積　一九、一平方粁

峰岡　元三根山藩といい牧野氏の陣屋がある、承応三年三月（三〇一年前）旧長岡藩主より分封せらる、その地をここに下し三山を治め官衙を置き藩主の居宅をおく、三根山の名はこの様な処から生る。明治三年十月丹後の峰山藩と呼称が同じ事から峰岡藩と改称、同四年七月廃藩置県と共に峯岡県と称し同年十二月県廃止に伴い峯岡町となる。その後は不明だが町を改め村となる。明治二十二年町村制施行の際福井村等と合して福木岡村となる。同三十四年竹野町村等と合し峰岡村となり現在にいたる。

竹野町　往昔は桜井郷弥彦の荘という、年紀開発不明。慶安二年（三〇六年前）の検地以前より竹野町村と称す、初め幕府の直領であつたが元和四年（三三七年前）三根山藩牧野氏の所領となり、廃藩置県後新潟県所轄、明治六年宿駅の指定を受く（旧北陸道に沿い稲島村が宿駅であるも遠路変更により指定）明治十二年郡区編成に際し西蒲に編入、同二十二年町村施行の際前田村と合し竹野町村と称し、同三十四年福木岡村と合併し峰岡村となる。

前田　往昔は戸田郷新田と称したが、万治二年（二九六年前）前田村と改む。元禄七年（二六一年前）三根山藩牧野氏の所領となる、明治四年七月廃藩置県により峯岡県の所管、同年十一月新潟県の所管以後竹野町に同じ。

仁箇　往古は弥彦の荘、慶安二年（三〇六年前）長岡藩の検地所領に属し越後府の所轄となる。明治三年新潟県の所轄、同十九年横山村を合併、同二十二年布目村と合併して仁ケ村と称す。同三十四年竹野町村等と合併し峯岡村となる

布目　慶安四年（三〇四年前）長岡藩の所領、慶応四年（八七年前）越後府の所轄に属す、爾来沿革は仁箇村と同じ。

稲島　開発不明、旧北陸道筋にあり宿駅に定められしも道路の変更により竹野町に移さる、慶安二年（三〇六年前）長岡藩の所領、慶応四年（八七年前）越後府の所轄後明治三年新潟県の所轄明治二十二年伏部と合して稲島村と称し同三十四年福木岡等と合併して峯岡村となる

伏部　本村は慶安二年（三〇六年前）長岡藩の所領、後三根山藩の所領となる爾来稲島と同じ

福井　往昔は不明、貞治五年（五八九年前）上杉氏（春日山城主）の所領、慶長三年（三五七年前）堀氏の所領、同十五年高田城主松平上総介忠輝の所管、元和二年（三三九年前）長岡城主堀氏の所領、承応三年（三〇一年前）牧野駿河守定成より分家した三根山藩に移つた。明治三年新潟県の所轄爾来峰岡と同じ。

舟戸　貞治五年（五八九年前）上杉氏の所領以後の沿革福井と同じ、明治三年新潟県の所轄以後に峯岡と同じである。

平沢　慶安三年（三〇五年前）長岡藩、承応二年（三〇二年前）与板の城主牧野氏各所領、元禄年間幕府の直領となる、享保九年（二三一年前）溝口氏（新発田）元文五年（二一五年前）再び幕府の直領、文化十二年（一四〇年前）井伊氏（与板）文政三年（一三五年前）三幕度府の直領、慶応元年（九〇年前）会津藩の所轄、明治三年三月新潟県の所轄、以後の沿革峰岡と同じ。

上木島、下木島　福井の沿革と同じ。

松郷屋　慶安年中（約三〇〇年前）長岡藩の所領万治年間（約二九〇年前）三根山藩の所領となる。爾来福井と同じ。

鷺ノ木　元和四年（三三七年前）長岡藩、寛文十一年（二八四年前）三根山藩の采邑となる。爾来峰岡と同じである

浦浜村

大字　五ケ浜、角海浜
人口　八〇〇人
面積　六、二平方粁

五ケ浜　昔は五ケ村（村名不詳）であつたが元亀三年（三七三年前）遠藤定通が一村に纒めたという。天正十七年（三六年前）佐州に驚乱あり、遠藤定康先峯の功を以て本村を賜わり已が采色となす元和二年長岡藩、承応三年（三〇一年前）三根山藩の所領、明治三年新潟県、同二十二年独立村同三十四年角海村と合して浦浜村となる。

角海浜　往昔不明元禄十三年（二五五年前）石瀬陣屋（幕府直領）同十五年長岡藩所領、明治三年新潟県所轄以降五ケ浜と同じ。

角田村

大字　角田浜、越前浜
四ツ郷屋
人口　三、九八九人

面積　一五、〇平方粁

角田浜　維新前幕府の所轄明治四年新潟県の所管、同二十二年町村制施行の際独立村、同三十四年越前浜村等と合し角田村となる。

越前浜　沿革角田浜と同じ

漆山村

大字　漆山、古志田新田、寺潟新田、下郷屋新田、並木、槇岡外新田、潟頭、河井、柿島、山島新田、馬堀、上中野、桜林
人口　五、三四七人
面積　一三、一平方粁

漆山、古志田新田、寺潟新田、下郷屋新田　漆山の往昔不詳、開発以来弥彦の荘、慶安二年十月（三〇六年前）長岡藩で検地した。古志田、寺潟、下郷屋の各新田ともに漆山の属村であつたが寺潟の分村年代不明なるも享和元年（一五四年前）に古志田、下郷屋は漆山より分村す、右四ケ字共元和元年（？）より三根山藩の所領。明治三年十一月新潟県所轄に属す。同二十二年町村制施行の際に共に合して漆山村となり同三十四年の再編成の際馬堀、潟南村と合併して漆山村となる。

四ツ郷屋　慶安二年（三〇六年前）長岡藩の所領、明治元年越後府、後新潟県の所轄に改め明治二十二年町村制施行の際木戸新田村と合し木山村と称し同三十四年再び越前浜村等と合し角田村となる

並木、槇岡外新田　往昔は弥彦の荘、慶安二年（三〇六年前）長岡藩の所領、正保二年（三一〇年前）並木九十郎という者が開発、九十郎新田と称した。享保三年（二六九年前）分れて並木、槇岡新田となる。弘化三年（一〇九年前）槇岡外新田と改む。元与板の所領を経、長岡の所領となる。元禄十四年二月（二五〇年前）出雲崎代官所の支配となり弘化二年再び長岡藩へ、明治三年新潟県の所轄となり同二十二年佐渡山と合して佐渡山村と称した。同三十四年馬堀村等と合併して漆山村となる。

潟頭　慶安二年（三〇六年前）長岡藩で検地、慶長年間上杉氏、同七年（三五三年前）堀氏、正保四年（三〇八年前）再び長岡藩の所轄となりその後巻村代官所の預所となつた。明治三年十一月新潟県の所轄、同二十二年町村制施行の際赤さび村等と合して潟南村と称し同三十四年漆山等と合併して漆山村となる。

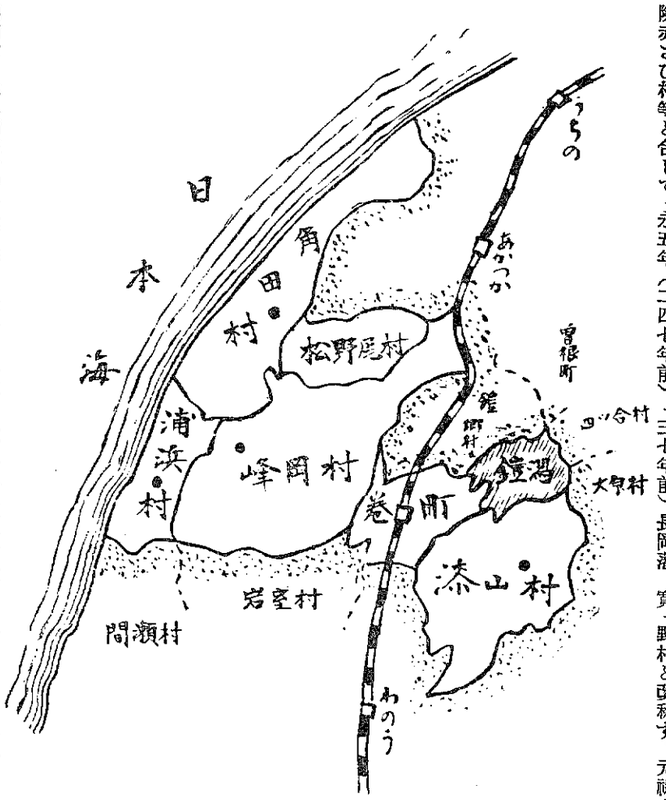
河井　往昔は漠たる荒野であつたが慶長十八年（三四二年前）上杉の臣樋口内蔵亟の家人西脇久右ェ門外二名この地来りて開墾をはじめ内蔵亟を迎う。爾来川井村と称し弥彦の荘、慶安二年（三〇六年前）長岡藩の検地あり、河井村と改む。寛永十一年（二八四年前）三根山藩、宝永五年（二四七年前）長岡藩に復す爾来沿革潟頭に同じ。

柿島、山島新田　往昔の沿革不明、中世以降弥彦の荘、慶安二年（三〇六年前）長岡藩検地し、元禄七年（二六一年前）には牧野氏が検地する。この頃山島村と云いしを新田の二字を加える。その年代不詳、検地以後の沿革は河井と同じ。

馬堀　元和四年（三三七年前）長岡藩、寛永十一年（三二一年前）峯岡藩の所領となり慶安二年十二月（三〇六年前）検地す。明治二年峯岡藩の所領、同四年七月峯岡県、同年十一月新潟県となる。同二十二年上中野村と合して馬堀村と称し、同三十四年町村再編成に際し漆山村となる。

上中野　寛永の頃開墾し中野村と称したが明治十二年郡区改制の際上中野村と改称す。元禄七年四月（二六一年前）長岡藩の検地あり、その後の沿革は馬堀村と同じ。

櫻林　往時不詳、弥彦の荘、元和四年（三三七年前）長岡藩の所領、寛永十一年（三二一年前）には



松野尾村

大字　松野尾、松山新田、新保新田、大原新田
人口　二、三九一人
面積　六、一平方粁

松野尾　往古、弥彦の荘に属す開発不祥慶安二年（三〇六年前）長岡藩元禄十六年（二五二年前）上知以降幕府の直領（徳川の初世の頃は牧野氏の封土であつたとか）明治四年一月新潟県の所轄、同二十二年町村制施行の際、松山新田、新保新田、大原新田村と合し松野尾村となる。

松山新田　往古は弥彦の荘、弥彦村神官河村又左ェ門開発移住、慶安二年（三〇六年前）領主牧野駿河守検地す。当時は又左ェ門新田と言う。承応三年（三〇一年前）松山村と改む。元禄十六年（二五二年前）幕府の直領となり松山新田村と改称す天明元年（一七四年前）幕府の検地がある享保九年新発田元文五年（二一五年前）再び幕府、延享元年（二一一年前）長岡藩、寛延二年（二〇六年前）六年前）明治四年十一年以降は馬堀と同じ。

新保新田　往古は弥彦の荘、慶安二年牧野駿河守検地す。新保新田村と号し元禄一六年（二五二年前）幕府の直領、慶応元年（九〇年前）新潟民政局の所轄となり明治四年一月新潟県の所轄、爾来松野尾村と同じ。

大原新田　往古弥彦の荘開発、年紀不祥、承応三年（三〇一年）牧野駿河守検地す。大原新田村と号した、爾来の沿革松野尾と同じ。

三度幕府寛政元年（二〇四年前）長岡藩寛暦十年（一九五年前）四度幕府が直轄す。明治以降松野尾村に同じ。

原稿募集

町民の声
随筆・小品文
短歌・俳句・詩
その他
いづれも原稿用紙使用のこと
宛先　公民館
（選択は公民館にお委せ下さい）

大地に根ざす館活動

＝合併を機会に思う＝

斎藤順作

先日、今年の夏の青年講習会の方々に集つてもらつて、いろいろお話をきいたのだが、その時、ある村でもさつそく村内で、同じような講習会をひらいたところ、講習会は非常にうまくいつたのだが青年団自身には、すこしも、認められるようなよい影響はなかつた、というようなやみをきかされたのである。

このなやみはそつくりそのまま現在の公民館にあてはまるのではあるまいかと思われるいろいろの行事がかんがえられ、おこなわれているが、それが果して、どれだけ住民の幸福と町や村の進歩に役立つているであろうか

いつてみれば、現在公民館に集り、また協力していられる方々は公民館がなくても、やはりそれだけのおしごとは、ごじぶんでどんどんおやりになられる方々でほんとうに公民館を必要とせねばならない方々とは、すこしもつながりをもつてない、というのがほんとのすがたであるまいか

巻の最後の運営審議会で、委員の一人の方が「館報以外に公民館は住民と直結するものはなにひとつもつてないし、していない」とおつしやつたほどである。

わたくしは時々村の一軒の家を夢みる。合所には部落のこどもたちが天神講のプログラムを議決した でなにか室内ゲームにうち興じてい、茶の間では女の人たちが、おのおの密柑の皮の利用法について研究発表しているし、座敷では青年諸君が、団の講習会で覚えてきた討論会の形式で、酪農及び裏作の可否について論じあい、それをわきできいていた親父連中は、ニヤニヤしながらきせるの雁首をたたいている。そしてその屋敷の片隅には今写しおえた映画や幻燈やテープコーダーがきちんとつみかさねられている。

夢からさめて、わたくしは吐息をし首を振る。いつの日、わが巻町にこうしたほんとに大地に根をおろし、住民のひとりひとりにとけこんだ公民館活動ができるだろうかと。

またしても巻のはなしになるが、巻は建物もあるし、しごともやつてるが、分館活動のないことと、職員が少いので指定公民館の選にもれていると、嘗て県の委員の方がきかせてくださつた。

もう建物の中にとじこもつていて、おいでおいでと、おいでを待つている時期はすぎてこちらから住民の中へよせていただかねばならぬ時期に、公民館活動は来ていると思われる。だからこそ、今度の合併を機会に、もとの分館をみんなおのおの独立した単位にしていただこうと思つたのだが、いざ数字をならべてみると、やはり、「人」と「金」の面でそうもならず、結局合併前とたいしたちがいのないものになつてしまつた。が、しかしいつかは、そしてできるだけ早く、ほんとの理想的のものにもつてゆきたいと念願してやまないものである。

菖蒲塚をたずねて

＊＊＊＊＊＊＊＊

菖蒲塚のある竹野町金仙寺の裏山へは、よく子供の頃先生に連れられていつた。

春先、松葉の散り敷いた山肌は楽しい遊び場だつた。柔かい春の陽はわらべ達の夢をほのぼのと育んでくれたに違いない。

菖蒲御前の悲話は、もつと大人になつてから聞かされた。それは他の伝説や物語がそうであるように多くの感傷が伴いがちである。

そして以来私達が菖蒲塚に対して描いていた歴史性は、近年、科学としての歴史の前には、さしたる意味をたもないことが明らかとなつた。

それよりも、此の菖蒲塚が陪塚をもつ県下でも最古の前方後円墳であり此の地方の古代小国家群形成期に於ける権力者の墳墓として、より高い価値が与えられねばならぬであろう。

久し振りに訪れた菖蒲塚は新雪に被われて、又変つた風情をそえている。遥か弥彦山が其の麗姿を雪雲に見え隠れて、越路の冬は今酣である。

（古墳前方部より弥彦山を望む）

新生巻町

竹内麗村

あけゆく空はくれなゐに
やがてかゞやくしろがねの
高き日輪の燦めきよ
海あり波は歓びを
山あり風はさゝやきを
田あり穂は充つ
わが町に
素朴の韻は
中空に
花と香りて
咲きたりき
もろびと嘗む
生産の興り栄えよ
七彩の希望の
光につゝまれて
大き力の動きゆく
わが町こそは
蒲原の
あけゆく光ならざるや

編集後記

新しい年に新しい郷土巻町の誕生を迎え愈々お健かにお過しの事と存じ上げます。

このたび巻外五ケ村の合併により公民館もやはり新しく発足いたすことになりました。

従来の公民館はその儘各地域の公民館とし巻公民館の中に中央公民館を設け各地域共通の事業を行う事になり取敢ず「公民館報」を新しく生れた「まき」と名づけ毎月一回発行することになりました。

合併により町の区域も広くなりました公民館ではさゝやかながら広く皆さんの希望、意見、町の動き等をとらえ御連絡申したいと思います。この紙面を通じ少しでもよりよい町の建設に役立てば幸いと存じております。

この館報が常に皆さんの希望に満ちた明るいものでありますよう御協力をお願い致します

館報「まき」の題字は前巻町公民館長斎藤順作先生に、「砂丘」「町の風土詩」のカットは巻高校の丸山清六先生にお願い致しました。

編集人　竹内末栄
石山与五栄門
北川郡司